

S.C.WORKS 今週のスタディ！

【ヘッドライン】

- 1) 「コープさっぽろ、格安スマホ参入 月2000円から」
  - 2) 「“フレンチの神” ジョエル・ロブションが醤油を監修」
  - 3) 「“迷宮” 東京・新宿駅、難易度軽減へスマホアプリ試験提供 ロッカー空き情報も」
- 

## 1) 「コープさっぽろ、格安スマホ参入 月2000円から」

コープさっぽろは9日、5月1日から格安スマートフォンの販売を始めると発表した。通話機能付きの最安プランで月額料金を2000円に抑え、主に主婦層やシニア層の利用者を開拓する。今春から販売を始める家庭用電力とセットで契約すればさらに料金を割り引く。電力販売にも弾みをつける考えだ。

通信会社と提携し「トドックスマホ」というプライベートブランドで取り扱う。4月1日に専用のコールセンターを開設。5月から申し込みと販売を開始する。まず札幌市内の1店舗に専用カウンターを設置。インターネットでも購入できるようにする。

スマホなどの携帯端末は2万-3万円台のものを中心に販売する。現在使っている電話番号を移行できる。NTTドコモの回線を利用するため、ドコモの端末であれば、契約者を特定するSIMカードを入れ替えるだけで使用可能だ。通信会社を自由に選べる「SIMフリー端末」もそのまま使える。

料金プランは「スマホ用通話機能付きプラン」の場合、データ量が1GBで月額2000円（税抜き）、これに通話料が30秒ごとに20円かかる。データ量が2GBのプラン（月額2050円＋通話料）だと、定額の通話料を含む一般のスマホ料金（月額6500円程度）と比べ、通話を抑えれば割安となる。通話ができないデータ通信のみの「タブレット用データ専用プラン」は最も安い1GBで1300円となっている。

コープさっぽろは4月に自由化される家庭向け電力小売事業に参入する。トドックスマホと家庭用電力をセット契約にして料金を割り引く。電力料金やセット割引の詳細は2月中に発表する予定だ。会見した大見英明理事長は「スマホ事業を始めるのは、電力事業の競争力を高めるため」と語った。

通信料をあまり使わない人は月々の料金がかなり安くなりそうなプランだ。コープは組合員向けの情報発信が充実しているため、口コミも広まっていくのではないかと見込んでいる。今後スマホや電力の販売場所が広がっていくのは楽しみではあるが、利用者が混乱しないようにわかりやすいプランを立ててもらえるとありがたい。

---

## 2) 「“フレンチの神” ジョエル・ロブションが醤油を監修」

世界的有名なフレンチシェフのジョエル・ロブション氏が10日、自身が監修する醤油『ヤマサ鮮度の一滴 グルメ醤油』（税別450円・ヤマサ醤油）の発売を記念し、都内で行われた新商品説明会&試食会に登場した。

フレンチの神様と呼ばれ、日本だけでも10店舗以上展開しているロブション氏。フランス料理と日本の伝統調味料・醤油の組み合わせは意外にも思えるが、「日本人のフレンチシェフよりも、フランス人のフレンチシェフの方が醤油を使っている」とか。実際、1981年にロブション氏がパリで3つ星を獲得した際にも、醤油を利用したメニューを作っていたんだそう。

今回のコラボ醤油は和食だけではなく洋食にも合うようなものという思いを込め試行錯誤。「減塩」「ロ当たりのまろやかさ」「ヘルシー」をテーマに、「抗酸化作用のあるザクロ、コレステロールにはリンゴ、健康に良いといわれるサクランボを使用。自然な甘みをだし、コクを出すためにワインを入れました」（ロブション氏）。従来の醤油とは異なる、フレンチシェフならではの感性がちりばめられている。

和食がユネスコ無形文化遺産に登録され、フレンチシェフの間で“だし”が注目を集めるなど、世界に広がる和の味。その中心的存在である醤油も、世界で広がりを見せていくのかも!?

和の調味料の代表とも言える醤油が有名シェフの手によって洋風にアレンジされたと聞くと試してみたくなる人は多いだろう。家庭での料理の幅も広がりそうだ。これをきっかけに他メーカーも様々開発するだろうし、醤油以外でも洋風アレンジしたものが登場してくると思う。このような形での食のグローバル化がどのように進んでいくか楽しみだ。

---

### 3) 「“迷宮”東京・新宿駅、難易度軽減へスマホアプリ試験提供 ロッカー空き情報も」

JR東日本が、東京駅と新宿駅で現在位置や経路などを表示するアプリについて、試験提供を開始した。昨年度に行われたものより、様々な機能向上が果たされている。

2月9日（火）から、出口や通路が多く構内が複雑な駅として知られる東京駅と新宿駅で、スマートフォン向けの駅構内ナビゲーションサービスの試験提供を開始した。

「App Store」「Google Play」で無料配布されるスマートフォン向けナビゲーションアプリ「駅構内ナビ」を使用することで、東京駅と新宿駅で現在地の表示、出発地から目的地への経路案内、目印になる施設を利用した経路ガイダンスのサービスが受けられる。

同社は昨年度、東京駅でこの「駅構内ナビ」の試行を行っていたが、今回はそれを新宿駅へも拡大。合わせて「iPhone」に加え「Android」にも、日本語に加え英語にも対応するよう改良されたほか、ビーコンやWi-Fiによる現在位置表示に加え利用者の位置を共有する機能を備え、「Suicaコインロッカー」の空き情報もリアルタイムで提供できるようにしたという。利用者の位置情報や移動履歴について、保持・収集は行わないとのこと。

試験提供は3月18日（金）までの予定。JR東日本はいま、駅ナカ施設の充実などで駅の利用方法が多様化するなか、1人1人のニーズに対応した案内が求められているといい、「本試行を通じてサービス内容を評価し、今後の実用化を目指します」としている。

どこに行くにもスマホのナビ機能はかかせないものになっている。そんな中でターミナル駅構内が迷宮化していることへの対策は遅れているように感じる。乗り換えアプリなどでも構内ナビはあったが有料のため使用している人は少ないのだろうか。無料提供前提で実用化して欲しいが、その前に分かりやすい駅構内の表示などもう少し工夫を凝らして欲しいところだ。ロッカーの空き情報が分かるのはいいシステムだと思う。